

地理

項目	観点	教科書名			
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を養うために、どのように配慮されているか。	新しい社会 地理(2・東書)	中学社会 地理 地域にまなぶ(17・教出)	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土(46・帝国)	中学社会 地理的分野[116・日文]
		・「知識・技能」を習得するための工夫として、興味・関心を引き出す「導入資料」→1時間を貫く問いである「学習課題」→「本文」→学習課題を解決する「チェック＆トライ」の流れで構造化されており、学習内容の定着化が図られている。また学習指導要領に示された「集める」「読み取る」「まとめる」の側面から技能を活用するコーナーを設け、資料を活用する力を高められるようになっている。抽象的な用語は、巻末の「用語解説」で確実に理解できるように配慮している。 ・「思考・判断・表現」を習得するための配慮として、各単元の導入部で、その単元を活用する「見方・考え方」を明示して捉えさせるとともに、学習の過程に「見方・考え方」を働かせるコーナーが設けてあり、学習が深められるようになっている。 ・諸地域学習では、世界の各州・日本の各地方の学習の終結部に、「ウェビング」「トゥールミン図式」といった、多様な思考ツールを活用して学習活動を考察する「まとめの活動」を設け、思考を整理し、学びが深められるようになっている。	・タイトルには、学習内容を象徴する主題と学習事項を表す副題が置かれ、併せて「学習課題」が明示されることで、生徒が課題意識が明確になるように配慮されている。「学習課題」から展開していく問題解決的な学習の流れが重視され、その流れに沿った教材や資料が掲載されている。 ・世界と日本の地誌学習の節末には、今日的な課題に迫るコラム的な特設ページが設けられ、興味・関心に応じて個々に探究する学習に取り組めるように配慮されている。 ・「知識・技能」を育成する学習活動の支援として、学習のまとめの「確認」コーナー、地理の学習で身に付けたい技能や表現力を養う「地理の技」が設けられている。「思考・判断・表現」を育成する学習活動の支援として、学習の定着と活用が図られるよう「表現」「読み解こう」「Q」の各コーナーが設けられている。「主体的に学習に取り組む態度」を育成する学習活動の支援として、特設ページ「地域のありかた」が設けられており、地域に根ざした話題を取り扱い、考察力が高められるように配慮されている。	・学習指導要領で重視されている「地理的な見方・考え方」を働かせながら、我が国の国土や世界の諸地域に関する地理的特色が捉えられるように構成されている。また「地理的な見方・考え方」を整理したページが設けられ説明されている。 ・「知識・技能」を習得するための工夫として、興味・関心を引く「導入」→学習を見通せる「学習課題」→丁寧に分かりやすい「本文」→学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」の展開で構造化されている。 ・「思考・判断・表現」を習得するための配慮として、「確認しよう」「説明しよう」において自分なりに判断・表現する問いが設けられている。言語活動を繰り返し行い、思考力・判断力・表現力を育成できるように配慮されている。 ・「主体的に学習に取り組む態度」を習得するための配慮として、写真や地図、グラフなどが大きく見やすく提示され、イメージを喚起したり、驚きや疑問を持たせるなど学習への意欲が引き出せる配慮がなされている。	・1時間授業の見開きで何を学ぶかが学習課題で明確に示されている。また「確認コーナー」が設けられ、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着をねらいとした学習活動や自分の考えを説明させるための問いが提示されており、習得した知識・技能を用いて文章化・言語化できるようにしている。 ・地理的な見方・考え方を働かせる問いを「深めようコーナー」として設け、習得した知識を定着させ活用させることで、思考力・判断力・表現力の向上が図れるようにしている。 ・単元全体に関わる問いや活動(「○○州(○○地方)のふりかえる」「アクティビティ」「チャレンジ地理」の問いや「地域調査の方法」「地域の在り方」の章・地理＋α・自由研究などで、主体的に学習に取り組む態度、自らの思考のプロセス等を客観的に捉える力、互いのよさを生かして協働する力などが培えるように構成されている。
2 内容の程度及び取扱いについて	○主体的・対話的で深い学びを実現するためにどのような工夫が見られるか。	・各章の1ページ目に小学校で学習した用語等が掲載されており、小学校との学びの接続を図った構成になっている。地図帳とも連携しており「新しい社会 地図」は教科書準拠の資料のように使うことができる。また歴史・公民の分野の関連ページに直接リンクした二次元コードが付いており、インターネットを使って関連ページの紙面を見ることができる。他教科と特に関連が強い内容にはDマークコンテンツが付いて、これもインターネットで教科書紙面を見ることができる。 ・探究課題を立てる「導入」→学習課題を解決しながら進める「問いの研究」→研究課題を解決する「まとめの活動」の形で問いを軸にして単元を構造化し、課題解決的な学習が進めやすくなっている。さらに「主体的に学習に取り組む態度」を習得するための配慮として、小集団での参加型学習を行う「みんなでチャレンジ」コーナーが設けられ、対話的な活動を効果的に実践できるようになっている。 ・「地域の在り方」の章では、SDGsの17の目標をについて、地球規模の課題・日本の地域的な課題が整理されており、地域で優先して解決すべき課題が具体化されている。(表紙裏のカラーページには日本における持続可能な社会づくりのが紹介され、地理学習のまなびの視点化となっている) ・地域調査の手法では、高知県高知市を例に、準備・調査・まとめ・発表するための、それぞれのスキルアップを多く取り上げられている。	・授業の初めに位置付けた「学習課題」を受けて、資料の読み解きのために随時設けられている「読み解こう」を経て、1時間の学習の最後には「確認／表現」コーナーの「問い」に取り組み、生徒が自ら学び、自ら考える時間が展開できるように配慮されている。さらに自分の意見と他者の意見との交流をすることにより、さらに深まるように配慮されている。 ・各単元で、二次元コード[まなびリンク]からウェブサイトにアクセスし、単元の学習に役立つ様々な情報を得ることができる。 ・「地域の在り方」の章では、日本における農村部と都市部の課題について捉え、自分の地域課題を調べる内容になっている。 ・地域調査を学ぶ学習では、愛知県名古屋市をもとに、意見を交換するなどの対話的な学習の場面、調査テーマを決めたり、調査結果を発表し合ったりする場面、まとめレポートをクラスで話し合ったりする場面を設けている。	・世界の諸地域及び日本の諸地域の単元冒頭に、学習の進め方や各地域で注目するテーマ・視点が「序節」として示されており、学習の見通しが立てやすくなっている。 ・「章(節)」の学習を振り返ろう」というように、問いが構造化され、単元のまとまりの中で「深い学び」が実現できる構造になっている。また学習した知識をもとに、地理的な見方・考え方を働かせながら主体的・対話的に「章(節)の問い」を振り返ることで、「深い学び」につなげられるように配慮されている。 ・単元ごとに二次元コードが表示され、タブレットパソコンを使って学習の理解を助ける動画コンテンツが用意されている。 ・「地域の在り方」の章では、日本の諸地域を振り返り各地域の課題を把握し、課題解決の構想を練り、発信するようになっている。SDGsの17の目標については、表の表紙裏に解説されている。 ・地域調査の単元では、東京都練馬区をもとに、調査テーマの決め方、視点の例、調査手順などが具体的に示されており、生徒が主体的に学習を進められるように配慮されている。	・生徒が主体的に学習を行うための教材やシンキングツール(「トライ」「深めよう」「資料活用」・「アクティビティ」等)などを多く取り上げている。 ・学習を振り下げる「自由研究」、学習のまとめにあたる「○○州(○○地方)のふりかえる」に加えて「アクティビティ、チャレンジ地理」で様々なシンキングツールを取り上げており、このような構成をすることにより、地域的特色を確実に捉え単元全体で主体的・対話的で深い学びを実現するようになっている。 ・「デジタルマーク」が表示されており、二次元コードから関連画像・動画を視聴することができる。 ・「地域のあり方」の章では、日本全体の課題・地域の課題の特色を調べる内容になっている。課題では「自然・防災」について考えるように配慮している。 ・地域調査の手法では、修学旅行の事前準備や当日の現地での活動など、生徒が京都を訪れる際にも活用できるようにになっている。
3 配列・分量	○教材の配列、分量には、どのような特色があるか。	・学習に興味・関心を持たせる「導入部」→学習を進める「展開部」→学習をまとめる「終結部」の形で構造化されており、学習の流れが捉えやすくなっている。 ・基礎的・基本的な地理的技能の確実な習得を図る「スキル・アップ」は、生徒の発達段階をふまえ系統的に配置されており、技能を段階的に高められるようになっている。 ・各見開きの最初に、生徒の興味・関心を引き出す「導入資料」が掲載されており、「読み取る」コーナーや「考える」コーナーを設けることによって学習にスムーズに入れるようになっている。 ・世界の諸地域と日本の諸地域のページ差が最も少なく、小単元で扱う時間数も各地域で同程度でバランス良く構成されている。	・年間授業時数をふまえ、世界と日本の地誌学習に重点が置かれ、各単元の扱いに軽重がつけられているため、生徒は追究した学習が展開できるように配慮されている。115時間の授業時数を要する。 ・新学習指導要領の内容の区分や順序に準拠し、「編・章・(節)」の配列により、その対応が分かりやすく組織されている。特に社会の変化や今日的課題が反映された事象が教材化されているとともに、変化や課題に自ら対応する資質・能力を育成するという視点から、問題解決的な学習が基調とされている。 ・生徒の日常生活や身近な話題・内容が多く取り上げられているが、茨城県に関する地域事例(写真資料)は1つの掲載のみである。	・1見開き1単位時間で構成され、学習課題が明確化されている。第1部10時間・第2部39時間・第3部54時間・第4部5時間配当され、標準授業時間数115時間のうち108時間(予備7時間)の分量で設定されている。 ・各見開きは、本文、資料、側注などが統一されたレイアウトで配置され、紙面の使い方が整理されている。学習内容が定着するよう、「導入→学習課題→本文→確認しよう・説明しよう」という展開で統一し、構造化されている。 ・本文と資料の関連する箇所には、図・写真や他ページへの参照指示が記載され、効率よく資料の活用ができるようになっている。	・学習指導要領の構成にあった三部構成で、学習内容の構造化と焦点化が図られている。103時間の授業時数で完結できるようになっている。 ・「2編2章 世界の諸地域」と「3編3章 日本の諸地域」の構成」の統一化が図られている。まず写真等で視覚的に捉えて単元の導入とし、自然環境や人文環境を大観している。次に主題や考察の仕方をもとに、主題学習・動態地誌的学習を行い地域的特色を追究している。最後に単元のふりかえりをする構成で、生徒が学習しやすいように配慮されている。
4 表記・体裁	○用語や資料、使用上の便宜等について、どのような工夫が見られるか。	・資料が豊富に大きく掲載されており、写真や文字が鮮明である。使用している文字の大きさや書体も読みやすくなっている。全ての文字はユニバーサルデザインフォントを使用、グラフや地図は、色覚特性のある生徒でも見分けられる色の組み合わせのカラーユニバーサルデザインを全面対応している。また学習に集中できるように本文ページからはキャラクターをなくしている。 ・世界の各州の導入部分にイラストを使用した地図や自然や生活に関する写真、日本の各地方の導入部分には、各地方の「探究課題」に関連した写真が掲載されており、生徒が学習する地域のイメージをしやすくなっている。	・写真・イラスト地図・グラフ・図解などの資料が豊富に掲載され、視覚的にとらえやすく配置されている。各資料には指示しやすいうように通し番号が付けられており、本文中にも資料との関連が分かるように資料番号が挿入されている。 ・全ての生徒に見やすいカラーユニバーサルデザインに基づく紙面作りがなされ、文字についてもユニバーサルデザインフォントを基本としている。図版資料については、形や模様、引き出しの表示も工夫されており、範読しやすいうように配慮されている。	・本文の記述を補足する写真や図版などが大判で豊富に掲載されている。 ・文字もユニバーサルデザインフォントが使用され、見開きデザインやグラフ・地図などの資料には、色覚特性を持つ生徒も識別しやすい色や模様が使用され、カラーユニバーサルデザインの配慮がなされている。 ・紙面右端にインデックス(章ごとに色で統一)が付いており、章の学習内容が記載され、一目で学習している単元が分かるように配慮されている。	・地図・写真・グラフ・しくみ図等の図版等、正確で最新の資料が使われている。文字は視認性の高いユニバーサルデザインフォントが使われており、またカラーユニバーサルデザインに対応した配色が成されている。 ・小学6年生以上で学習する漢字や固有名詞にはふりがながつけられており、読みやすくなっている。 ・見開きページの右端には、インデックスが設けられており、生徒が学習している単元を常に確認できるようにになっている。